

特定非営利活動法人

白山の自然を考える会



会報 しらやま
NO. 66

【理事長】 石野 洋
【事務所】 〒921-8817
石川郡野々市町横宮8-5
コーポ小坂206

【事務局・連絡先】
加藤正現 〒923-0061
小松市国府台3-121
TEL/FAX 0761-47-5774

【郵便振替口座】
「白山の自然を考える会」
00700-0-8593

【定 価】 100円

【ホームページ】 <http://www2.nsknet.or.jp/~shizen>

ブナの新緑と白山 中宮道滝ヶ岳 撮影・木村芳文(当会会員)



雑木林春の詩

館裏山へ

米山 寛

毎年恒例の館裏山春の詩ハイキングに参加、私にとつて去年と2回目である。

今年も好天に恵まれる。今年の参加者は多く、にぎやかなのだ。ともかくにも和気あいあいと、林道を歩き始める。北電の巡視路まではカタクリ、キクザキイチゲなどが見ることが出来る。今年は去年より雪が遅くまで降つたためか、花の咲くのが遅れ気味ではないだろうか。

今日も一日、ハイキング日和になりそうだ。落葉樹もようやく芽吹き始めたようだ。まだ、明るい林には落ち葉の間からスマレ等が咲き始めている。シヨウジョウバカマもチラホラ咲き始めている。コシノコバイモも数は少ないが点々と咲いており、目立たないように淡いグリーンのお小さな花をひっそりと立てている。シュンランも一輪

見つけられたようだ。久しぶりにお目にかかる、こちらも淡いグリーンの小さな赤い斑があり可愛い。

最初の鉄塔を過ぎる辺りからは、イワウチワ（トクワカソウ）が登山道の脇にずーっと、群落を作って花街道のようである。イワウチワが咲く頃だから、カタクリは遅れているだろうとの話。それでもカタクリはイワウチワの隣で負けじと、美しさを競っているように見える。また、そういうのを見て撮るのも楽しい。

周りを見れば冬椿の品のよい赤い花や、タムシバの白い花は今が盛りのようだ。毎年この時期同じ風景が見られることが出来、来年もまた楽しめそうな気がする。

落ち葉の山道をハイキング気分で歩き、時折下界を望みさわやかな風に吹かれて気持ちよし。ところどころ去年の台風で、コシアブラ、ミズナラ等の比較的大きい木が根こそぎ倒れているのが

目に入る。赤松の大木などは根元近くから折れている。巡視路を多くの倒木が塞いで自然の猛威を見る。常緑のユズリハなどは、冬雪に埋もれ上部の顔を出したところだけ、多くは食害にあっている。カモシカの胃袋には大半は入ったと思われる。

巡視路全線にわたって、カタクリ群落が続いており、全部咲いていたならばさぞ壮観だろうなど思われる。

野鳥の声もシジュウカラ、コゲラ、ヤマガラ等が多く囀っており、美しい声ではオオルリ、メジロ、又私だけがコマドリの美声を聞くことが出来た。林の上のほうでアカゲラの囀りも聞いた。

今日は春一番への一日であった。

(当会会員)

事務局短信

1月25日(火) 白山トンネル反対の要望書を小松市長へ提出
(4名)

2月28日(金) 砂防ダム学習会(13名) 講師：勘田 益男氏
理事会(9名)

2月4日(金) 運営会議(7名)
2月20日(日) かんじきハイク(6名) 医王山にて

3月4日(金) 運営会議(11名)
3月6日(日) 労山総会に出席(4名)

3月7日(月) 砂防ダム講演会(国交省主催)に出席(4名)
3月13日(日) 第16回総会
(33名) 勤労者プラザにて

4月14日(月) 事務局会議
(5名)

4月24日(木) チブリ尾根登山道の問題で
県と話し合い
(2名)

4月8日(金) 運営会議
(13名)

4月17日(日) 雑木林春の詩
(15名)

4月23日(土) アースデイ石川に参加
(3名)



第16回総会報告

事務局長 加藤 正現

真冬に逆戻りしたかのような雪の舞う寒い日でしたが、さる3月13日(日)午後、金沢勤労者プラザにて当会の第16回総会が開かれました。

第1部の総会では28名参加のもと、2004年度の活動報告及び2005年度の活動方針について活発な議論が展開されました。活動方針の主なものについてあげてみたいと思います。

まず白山トンネル問題については、昨年行った署名活動のような派手な活動は今年はできませんが、白山北部地域の自然環境の保全に向けて専門家の協力を仰ぎながら客観的データを集めたり、当会独自にトンネルの費用対効果の試算を行うなど地に足をつけた活動を行

っていききたいと思います。

次に、今年も県からのチブ
リ尾根の維持管理作業の委託事業を引き受けることになりました。7月と9月に草刈りを実施しますので、どうか多くの皆さんに参加していただきたいと思います。

2月に白山市が誕生いたしました。 当会の活動のフィールドである白山山城は、白山市に所属することになりました。今後早急に白山市とコンタクトをとり、白山の自然保護について意見交換を行いたいと思っております。また、これまで以上に白峰支所(旧白峰村)との緊密な話し合いも必要になってくるでしょう。

皆さんは、**白山の世界遺**

産登録問題についてどのようなお考えをお持ちですか?会としてこの問題にはまだ態度を表明していませんが、まず、皆さんのご意見をお聞きたいと思えます。当会のホームページ上にメールアドレスがありますので、そちらにご意見を入れてください。お願いいたします。

今年も、4月から11月にかけて**自然観察会やクリーン活動**などの諸行事を企画いたします。せっかくの行事ですので、多くの皆さんに参加していただきたいと思えます。詳細は、会報やホームページに掲載いたしますので、ご覧いただいたうえ参加申し込みいただければ幸いです。また、白山の豊かな自然を次世代につなぐために、9月には子どもクリーン活動も企画いたします。ご協力ください。

昨秋は、**クマ問題**が世間を大きくにぎわしました。罪

のないクマが次々と射殺されていくことに本当に悲しい思いをしました。会としては、豊かな森づくりや里山の再生が何より必要と考えています。時間がかかるかもしれませんが、協力できる団体があればこういったことに一緒に取り組んでいきたいと考えています。

第2部は、33名参加のもと、上馬康生氏(白山自然保護センター研究主幹)による記念講演(演題「白山の野生生物」)が行われました。上馬氏ならではの写真と語りによって、白山の豊かな自然が改めて私たち一人一人の心実感させられたことと思います。白山には、まだまだ守り伝えていくべき自然が存在しているのです。そのことのうれしさとそして責任とを実感させられました。

2005年度も皆さんと一緒に活動していきましょう。よろしくお願ひします。

3年目を迎えた「市ノ瀬別山道（チブリ尾根）登山道管理委託事業」

運営委員 米山 豊

〈2005年度の予定〉

市ノ瀬別山道（チブリ尾根）登山道管理委託事業は、三年目を迎えました。この便りが届く頃には、県と契約を交わしていることと思いません。

登山道管理委託事業は、チブリ尾根の登山道を整備、草刈りを含め、全面的に責任を負って管理する事業です。白山では17登山道がありませんが、ここだけが民間（NPO法人白山の自然を考える会）に委託事業として任されています。

昨年の反省をふまえ、今年以下は以下の日程で行うこととしました。小雨決行です。

5月29日（日）

第一回巡検および整備

6月19日（日）

第二回巡検および整備

7月23日（土）24日（日）

第三回巡検および整備、草刈り

8月21日（日）

第四回巡検および整備

9月11日（日）

第五回巡検および整備、草刈り

10月16日（日）

第六回巡検および整備

7月、9月の巡検は草刈りもかねますので、一人でも多くの方の参加を募ります。保険、鎌、ヘルメット等はこちらで準備しますので、積極的に参加してください。多少ですが車提供の方には、後ほど委託費から交通費がでます。

なお、釈迦岳ブナ植樹地の

下草刈りは、7月17日（日）に行います。

■ 参加者は、米山（電、fax）か加藤（電、fax）

（まで事前）に連絡ください。メール可。

■ 白山比咩神社駐車場に午前7時集合です。

〈私の思い〉

私は自然保護の活動は、ねばり強いものでなければならぬと考えています。面倒な活動です。相手はこちらの主張を、数回の交渉で「はい、そうですね」とは受け止めてくれません。相手に「はい、そうですね」と、納得させる活動が必要なのだと思います。

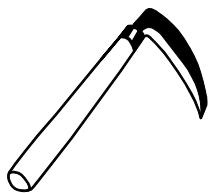
主張を認めてもらうためには、その会が何を目的にして活動をしているのかを明確にしていること、日々その会がどのような自然と向き合っているのを見せなければならぬ

のでしょう。

「私たちはただ反対しているわけではありません。私たちと自然との関わりを見てください。私たちは汗も流しています。苦労もしています。時間もかけています。」そんな姿を見せなければいけないのだと、思います。四苦八苦している姿が、相手に話を聞いてやるかなとの、姿勢を生み出すのです。

私たちの会員の多くは、山麓にすんでいるわけではありません。農業や林業あるいは漁業といった自然を相手にし、日々の糧をえているわけでもありません。それだからこそ、残る何かを見せ続けなければ、信用してもらえないのだと考えています。

ブナ植樹等と草刈りの活動は、「白山の自然を考える会」のささやかですが、自然相手のそのような活動の一



つです。

巡検や草刈りは、自然保護を大上段に掲げる活動では決してありませんが、見えてくることはたくさんあります。植物は、動物は、鳥は、生態系は・・・、関わる一人一人が五感で感じる活動でもあります。

また、会はいつとも元気ではありません。時には停滞もしますし、人と人が運営しているのですから、一枚岩なんてことがあるはずもなく、意見の相違もできます。そんなときでも続けなければならぬ活動があります。その活動があって、時には停滞していてもまた元気になっていくのだと思います。

私は、ブナ植樹や下草刈り、それに草刈りの活動を「白山の自然を考える会」のそんな活動の一つとも見ています。

みなさん、煩わしい活動に、粘りの必要な活動に、面倒な活動に、関わってみてください。得るものは、きつとあります。

地衣類 ちいりるい

三坂岳店 (当会会員)

山を歩いていると、ブナなどの樹皮や高山帯の岩の表面に、汚れか模様のようなものを見た事があるでしょう。あるいは針葉樹などの枝から垂れ下がったおぼろ昆布状の物も見かけたでしょう。植物の一種らしいとは思っても一見して何の仲間なのか見当が付きにくいものです。これらは地衣類と言う一群の生物です。〇〇ゴケ・〇〇タケなど名前からはコケやキノコを想像しますが、実はそのような単一の生物ではなく菌類と藻類との共生体で、菌類が住み家や水分を、藻類が光合成産物(炭水化物)をそれぞれ提供し合って、乾燥・寒暑・有害元素・強い紫外線など普通の生物には耐え難い過酷な環境を生き抜いている姿なのです。

共生相手・形態・分布などは単一生物同様遺伝すると言われています。寄生ではないので、くっつく場所を借りている地主さんにはほとんど迷惑はかかりません。

形はチズゴケのようなシミ状、ウメノキゴケやイワタケ(食用)などのようなヒラヒラ状、ハナゴケ(トナカイの重要な餌)やサルオガセなどのような樹枝状・糸状など、色も灰色、橙色、青っぽいものなど様々。日本だけでも1000種以上あり、極圏・ヒマラヤなどの極寒の地や砂漠にも分布します。もっと生きやすい環境もあるだろうに、と思われませんが、生物は常に他の生物との競争を避け誰も手を付けていない場所(ニッチ)に住めないか、と考える傾向があるようです。



様々な地衣類が着くブナ
(猿ヶ馬場山)



ユウオウゴケ (妙高山)

いつも皆様のお世話とお骨折りを感謝しながら会報を読んでおります。

白山登山回想

儀 外 田 吉

特に今回「しらやまNO65」巻頭の中島隆男さんの詩“回想”は、一字一句何度も何度も読み返しました。

私はこの秋に80歳になります。5、6年前迄は妻を伴いながら上高地、立山、白山などを歩いておりました。しかし、4年ほど前より、

腰痛を原因とする左脚の痛みやしびれで、今では山歩きもできなくなってしまうました。

ただ、59歳より山歩きの体力づくりのためと思って始めた水泳だけは、プールの水中での水圧や、体重軽減のために、肢の痛みがなくなるので、現在では、石川県マスターズ水泳競技の最高齢者として全国大会にまで出場を続けています。

そして4年前に引越越してきましたこの野々市のマンション部屋からは、晴れた日には、白山を眺めながら過ぎし日の山行の憶いを積み重ねております。

私の初めての白山登山は、父、兄とともに1941年（昭和16年）8月、私の15歳のときでしたが、兄は12月に始まった太平洋戦争で戦死、父は1971年（昭和46年）に亡くなりました。山には、私の喜びも悲しみも、そして青春も重なっていて、テレビなどで山の映像を

眺めると、もう自分の足では登れないのだと悲しくなりました。しかし、登れる時に

登って、良い体験をしたという充実感で、後悔のない人生で良かったという満足感一杯の現在です。



前置きが長くなりましたが、装備、食料すべてが揃う現在の山行とは違う約60年前の、恐らく皆さんの生まれる前の白山登山のことをお知らせしたいと思います。

それは1947年（昭和22年）にさかのぼります。それまではほとんど未組織であった石川県の山岳関係者が組織されて、1月に日本山岳会石川支部が結成されたのです。

そのきっかけは、その年1947年の秋に第2回国民

体育大会が石川県で開催されることとなり、その行事の1つとして山岳部門もとり上げられるということで、支部長は阿部壮次郎さん、また大聖寺に帰っておられた深田久弥さんなども会員として入会されました。

当時は敗戦後1年余りで、まさに“国敗れて山河あり”の状態で、街も村も衣、食、住すべて現代人には想像もできない最悪の状態でした。私たち若者も戦いに荒んだ身心をかかえ茫然自失のありさまでした。

そんな時代に若者たちは、青春のすべてを賭ける情熱を寄せ集めて、石川県の山岳人なら誰でも夢みた白山山系縦走（御前峰より刀利峠まで40キロメートル）に挑んだのです。（当会会員）

吉田さんから詳細な山行記を頂きました。紙面の都合上、3回に分けて掲載いたします。ご了承下さい。

団体会員紹介（その2）

福井くろゆりクラブ

代表 藤本外史

福井くろゆりクラブは、昭和62年に「北陸の百山」が選定されたのを契機に十数人が集い、「百山全て登ろうと誓い」結成されました。記念すべき第一回荒島岳から始まり、平成6年福井市の国見岳で百山を締めくくることが出来ました。

その後は、近県の山を中心に月一、二度の山行を実施しており、今日までに登った山は、三百山を越えました。またその間、十周年には白山のすべての登山口から一斉に山頂をめざし意気軒昂。十五周年には韓国の最高峰ハルラサンに遠征。次の二十周年には再度海外を視野に入れています。

ただ、ただに岳人の間で北陸百山の意義も薄れ、くろゆりも無作為に登るようになり、山に

理屈はいらない、ひたすら楽しむだけという風潮が蔓延しているのは、百余人の会員を有し責任ある中高年の山の会としては、いささか寂しく、貴会のように大儀を持ち、しっかりとした目的を定めることが、くろゆりとしての今後の発展に不可欠だと考えています。

福井くろゆりクラブを、貴会の会報にと、大変ありがたく、御礼申し上げます。

貴会の白山を守ろうとする意気込みに心から感銘いたします。

（当会の団体会員のコーナーです。ご期待下さい。）



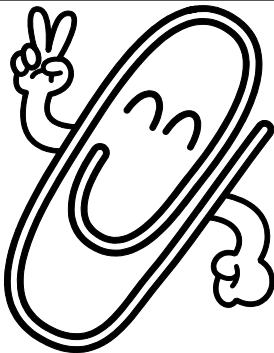
でかけてみませんか

5月22日（日）
 生物部会
 吉次山
 8時 湯涌JA駐車場前集合
 連絡：村上

6月19日（日）
 クリーン活動
 六万山
 7時 白山比咩神社駐車場
 連絡：加藤

7月17日（日）
 釈迦岳ブナ植樹地の下草刈り
 7時 白山比咩神社駐車場
 連絡：米山

7月23、24日（日）
 チブリ登山道草刈り
 6時 白山比咩神社駐車場
 連絡：米山



以上の皆様です。

新入会員

長堀晴雄
 松田直美
 永田康弘

久保壽子
 熊野盛夫
 谷 幸夫
 出村千恵子
 平澤卓朗

寄付ありがとうございます

「環境について考える
第5回」

デンマークの挑戦その1
自然エネルギー編
三津野真澄(当会会員)

「デンマーク」と聞いて、皆さんは何を連想しますか。北欧の小さな国、アンデルセンと人魚姫、世界でも数少ない王国……といったところでしょうか。ドイツの北、スウェーデンの南に位置し、国土の大半が北海に突き出たユトランド半島です。面積は四万三千㎡(九州とほぼ同じ、但しグリーンランドを除く)、

人口五百四十万人(北海道よりやや少ない)、首都はコペンハーゲン、主要産業は農業で福祉国家でもあります。このデンマーク、近年は環境への先進的な取り組みで注目の的なのです。今回より2回連続でその紹介、1回目はエネルギー政策です。

* * * * *

デンマークは現在エネルギー自給率が139%(つまり輸出もしている)、ちなみに日本は20%です。実は第一次石油ショック当時のデンマークは、自給率が2%と異常に低い値でした。当時国内エネルギーの9割以上を輸入原油に依存していたため原油の国内価格は3倍以上に跳ね上がり、国全体はパニック状態。そこで政府はエネルギー計画を立て、石油から石炭への転換、省エネの推進、炭素税・エネルギー税の導入、コージェネレーション(熱供給発電)システムの開発などと共に、自然エネルギー

の積極的利用に着手しました。

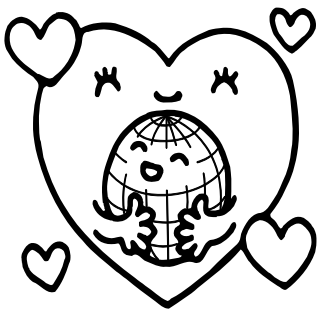
「自然エネルギー」とは再生可能エネルギーとも呼ばれ、風力、太陽光、地熱、バイオマス、廃棄物など、エネルギー資源として枯渇せず基本的に二酸化炭素などを排出しない、クリーンなものとして定義されます。

デンマークは国土が平坦で一年を通じて風が強いという特徴を生かして、まず風力発電の利用を図りました。主に市民の共同出資(組合形式)によつて建設が進み(約8割が市民出資のもの)、現在では約6500基、250万キロワットと世界一の風力発電国。また風力発電機はデンマークの主要輸出品としても重要で、現在は世界シェアの55%を占めるに至っています。

現地では平坦地はもちろんのこと海上にも大規模なウインドファーム(風の農場)が多数建設され、北海か

らの風を受けて力強く回っているのを見る事ができました。

もうひとつの特徴的な取り組みは、バイオマス(生物資源)発電でしょう。畜産が盛んなデンマークでは家畜の糞尿による地下水汚染が懸念されたことがきっかけで始まりました。現在では糞尿や敷藁に農業廃棄物や家庭からの生ゴミ等を加えて発酵させ、発生するメタンガスを用いて発電します。また生じる温水を暖房・給湯用として地域の家庭にパイプで供給されています。このよう



なバイオマス発電所が現在、国内に18基稼動中です。

デンマークでは2005年までに二酸化炭素を2

0%削減(1988年比較)し、さらに2030年までに半分にまで減らすという高い理念に基づいた目標を立ててきました。そして今回紹

介してきたような取り組みの結果、2004年で既に25%もの削減に成功しているのです。



写真1

コペンハーゲンを代表する観光地である人魚の像。その背後にも大型の海上風力発電機が回っている。

写真2

畜産農家10戸の共同出資で運営されるオーフス市郊外のバイオマス発電所。年間300万³mのメタンガスが発生し、電気と温水の売上が年間2億5千万円だという。

編集後記

竹中正美

最近、仕事、仕事で出かけられません。遊びにはもちろん、事務局にも顔を出せず、山にも出かけていない、ちよっぴり淋しく毎日を過ごしている今この頃ですが、この『春』という季節にすぐわれています。遠くの山々も山肌が見えるようになり、木々には葉がつき始め、冬眠していた動物たちも動き始めています。

この新緑の季節、山歩き大好きな方には見のがせないですね。私も仕事ばかりしている場合ではありません。あちこちの山で、たくさんの人と出会うことを楽しみに出かけます。

では、皆さん、山でお会いしましょう。(事務局)